

News Release

平成31年3月19日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
N I T E (ナ イ ト)
東 北 支 所

春本番、自転車の思わぬ事故に注意！ ～安全のために知っておきたいポイント～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

2013年度から2017年度の5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、自転車^{※2}の事故は346件^{※3}ありました。

東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）では5年間に8件の事故が通知されています。

東北6県で発生した自転車の事故8件のうち、重症事故が5件、軽傷事故が3件となっています。

表1 自転車の事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2013年度	0	0	0	0	1	0	1
2014年度	0	0	2	1	0	0	3
2015年度	0	0	3	0	0	0	3
2016年度	1	0	0	0	0	0	1
2017年度	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	0	5	1	1	0	8

表2 自転車の事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	0	0	0	0	0	0
重傷	1	0	3	1	0	0	5
軽傷	0	0	2	0	1	0	3
拡大被害	0	0	0	0	0	0	0
製品破損	0	0	0	0	0	0	0
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	0	5	1	1	0	8

表3 自転車の事故の県別の事故原因区分別発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A:設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	B:製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	1	0	0	1
	C:経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3:製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	0	0	0	0	0	0
製品に起因しない事故	D:施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	1	0	0	0	1
	E:誤使用や不注意によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	F:その他製品に起因しないもの	1	0	2	0	0	0	3
G1、G2:原因不明のもの		0	0	1	0	1	0	2
H:調査中のもの		0	0	1	0	0	0	1
合計		1	0	5	1	1	0	8

- (※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。
- (※2) 自転車には自転車用幼児座席を含む。
- (※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。



2. 主な事故事例

○2016年5月2日（青森県、10代女性、重症）

事故内容: 自転車(一般自転車)で走行中、前輪がロックし、転倒、負傷した。

事故原因: 当該製品の前ホーク及び前輪のスポークの状態から、前輪に異物が巻き込まれて前輪がロックしたため、前輪が横向きとなり転倒したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

○2015年4月6日（宮城県、10代男性、軽症）

事故内容: 自転車(スポーツ車)で走行中にチェーンが外れ、転倒し、顔を負傷した。

事故原因: 事故品は変速機及びブレーキに変形等がなく、チェーン外れやタイヤロックに至る異常は認められず、事故当時の状況も不明であることから、原因の特定はできなかった。

○2014年8月13日（秋田県、30代男性、重症）

事故内容: 自転車(スポーツ車)で走行中、当該製品の前輪が外れ、転倒し、負傷した。

事故原因: 当該製品前輪のクイックリリースが正しく固定されておらず、走行中にクイックリリースが弛み、カムレバーがブレーキ用ディスクローターに食い込み、前ホーク爪部が破損して前輪がホーク爪部から外れ、事故に至ったものと推定される。

事業者は再発防止として、平成27年4月に当該製品のリコールを行い、「ディスクブレーキ」と「レバーが180°以上開く恐れのあるフロントのクイックリリース(クイックリリース)」が搭載されているモデルについて、クイックリリースの無償交換を行っている。

○2014年8月2日（宮城県、10代男性、重症）

事故内容: 自転車(スポーツ車)で走行中、当該製品の前ホークと車体の間が折れて転倒し、負傷した。

事故原因: 当該製品の前ホークの強度に異常が認められなかったことから、走行中に何らかの大きな力が加わったため前ホークが変形したものと考えられる。

○2014年6月25日（宮城県、10代男性、重症）

事故内容: 自転車(一般自転車)で下り坂を走行中、ブレーキを掛けたが歩道の縁石に衝突し、転倒、負傷した。

事故原因: 詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、ブレーキ部品に変形等の異常は認められないことから、後ブレーキワイヤーが初期伸びや調整不良によって緩みがあったため、後ブレーキの制動力が低下し、制動距離が伸びて事故に至った可能性が考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

なお、取扱説明書には、「購入初期は、ねじのなじみなどの影響でゆるみなどが生じやすいため、購入後2か月以内に初期点検を受ける」旨、記載されている。

3. 自転車の事故の実験映像について

自転車の事故の実験映像に関しまして、写真及びムービーをご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

以上

【編集人のつぶやき】

自転車の事故の特徴は、全国も東北も10代の使用者での事故が多いこと。

東北は8件の事故のうち6件が10代の使用者の事故なんです。

そして、他の製品事故に比べ使用期間が短いこと。

使用期間が1日で事故が発生した事例も・・・(≥0≤)・・・

季節が良くなって、新しい自転車を買ってもらってルンルン気分なのに事故！

なんてことが起きないように、

乗る前に自転車に不備がないか確認しよう！

ハンドルに買い物袋や傘などをぶら下げるのはやめよう！

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構(略称:NITE)

東北支所 業務課

担当: 菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、福井(ふくい)

電話: 022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ



YouTube
公式チャンネル



Twitter
公式アカウント

